

# 地域医療総合医学

【単位数:0.5単位, 授業10コマ(定期試験含まず)】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

## 1 科目責任者

宮田靖志 教授(特任)(地域総合診療医学寄附講座)

## 2 教育目標

### (1) ねらい(Ⅱ-1-b, Ⅱ-4-c, Ⅱ-5-c, Ⅱ-6-c, Ⅲ-8-b, Ⅳ-9-b, V-1-b, V-2-b, V-3-b, V-4-b, V-5-b)

- ① コアコンピテンスである“V 地域社会へ貢献”の理解のため, 地域医療の現状と地域医療で求められる知識, 技能, 態度を学び, そのことによって“プロフェッショナリズム”の涵養にもつなげる。
- ② 地域医療とは, 対象とするコミュニティを特定し, そのニーズを明らかにし, その地域で包括的な医療を提供する医師として幅広い診療を提供するとともに, プライマリ・ヘルスケアの視点を持って地域全体の健康を目指して医療活動することである。地域医療実践のための総合診療, プライマリ・ケア及び地域包括ケアについて理解する。
- ③ コアコンピテンスの“プロフェッショナリズム”における生涯学習, 自己管理, 医療安全の中で, 近年, 特に問題となっているマルチモビディティ(多疾患併存)やポリファーマシー(多剤併用)の概念を理解し, 臨床実習でこのテーマについて経験した際にその対策が考えられるようになる。

### (2) 学修目標

- ① コミュニティの概念を説明できる。
- ② コミュニティの健康問題, ニーズを特定することの意義を説明できる。
- ③ コミュニティの健康に影響を及ぼす貧困, 文化, 地域疫学など, いわゆる健康の社会決定要因を説明することができる。
- ④ ヘルスプロモーションと疾患予防について患者, 家族, 住民の啓発活動をすることの意義を説明できる。
- ⑤ コミュニティ内で同定された健康問題に介入するための多職種, 他部門連携の実際を説明できる。
- ⑥ プライマリ・ケアの原則(近接性, 包括性, 協調性, 継続性, 責任性)を説明できる。
- ⑦ 医療施設を訪れないコミュニティの住民をも視野に入れたプライマリ・ヘルスケアの概念を説明できる。
- ⑧ 地域医療における病院総合医の役割を説明できる。
- ⑨ 地域医療における家庭医の役割を説明できる。
- ⑩ 都市部と僻地での地域医療の実践の具体を説明できる。
- ⑪ マルチモビディティの概念を説明できる。
- ⑫ ポリファーマシーの概念を説明できる。
- ⑬ ポリファーマシーへの対応を述べることができる。

### 3 成績の判定・評価

#### (1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	70%	記述式及び多肢選択問題
外部講師による授業に関するレポート	○	30%	外部講師による講義内容に関する感想を講義当日の24:00までにAIDLE-Kに提出する。記載内容をあらかじめ提示する評価基準により各10点満点で採点する。提出が指定された期限から遅延した場合は、原則受理はするが採点は行わない。
態度	○	—	授業妨害となるような態度不良が見られる場合は、総合判定から最大10点減点する。特に外部講師の講義の際には、パソコン、スマートフォン、タブレット等の電子機器や教科書等、講義に必要なでないものは鞆に入れておくこと。これらが守られない場合は総合判定から10点減点とする。

出席： 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

#### (2) 合格基準

- 評価対象の合計が60%以上で合格とする。
- 非常勤講師の講義内容の感想の評価は下記の通りとする。
  - ・キーワードを3つ挙げ、各キーワードに関して、講義内容に関する自分自身の考えを記載する。講義資料からの転載、一般的・教科書的な内容の記載は不可とする。
  - ・自身の十分な考えが記載されている場合、外部講師による講義1つにつき10点満点で採点する。

#### (3) 再試験・再評価の方法

定期試験に準ずる再試験を実施する。60%以上を合格とする。

#### (4) 課題（試験やレポート）へのフィードバック

定期試験の成績についての総括を学内メールで実施する。

これにて理解が不十分な項目について再確認を促すとともに、定期試験で不合格となった者は再試験に備える。

### 4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

## 5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
地域医療学入門	日本医学教育学会 地域医療教育委員会 監修	診断と治療社	地域医療全般について学生向けに解説されている。
日本プライマリ・ケア連合学会基本研修ハンドブック 改訂第3版	日本プライマリ・ケア連合学会	南山堂	総合診療実践のための基本的内容が網羅されている。
総合診療・家庭医療のエッセンス 第2版	草場鉄周監修	カイ書林	家庭医療の実践方法が広くまとめられている。★お勧め
地域医療テキスト	自治医科大学監修	医学書院	地域医療のシステムが詳述されている。
患者中心の医療の方法	モイラ・スチュワート	羊土社	家庭医療のバイブルとなっている書籍の翻訳であり、すべての医療実践に役立つ概念がまとめられている。
患者さん中心で行こう ポリファーマシー対策 意思決定の共有と価値観に基づく 医療の実践	宮田靖志編著	日本医事新報社	ポリファーマシーの概念とその対策が簡潔にまとめられている。

## 6 準備学習（予習・復習）

- プライマリ・ケア連合学会HPの“総合診療医という選択“というムービーを視聴し、総合診療に関するイメージを掴んでおく(1コマあたり約15分)。
- 1～5番目に挙げられている参考図書のどれかを選んで、その目次全体を眺め、どのような事項が取り上げられているのか確認しておく(1コマあたり約15分)。
- 上記の中で、興味を惹いた項目について記載内容を読んでおく(1コマあたり約0.5時間)。
- 1コマ目の講義で配付された資料について講義後に内容を再確認し、2コマ目以降の講義に臨むこと(1コマあたり約1時間)。

## 7 授業計画

### (1) 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中、一部、小グループ討論や講師との質疑応答などのアクティブ・ラーニングを導入する。

### (2) 講義の内容

1コマ目に総論として地域医療、総合医診療に関するキーワードを解説し、2コマ目以降は、それぞれの異なる状況での総合診療及び地域医療について、具体的な活動内容を提示しながら、概念理解を進めていく。